

- 5) 的場幸雄: 鉄と鋼, 1936, **20**, 837~47
鉄と鋼, 1937, **21**, 875~79
- 6) G. Phragman & B. Kalling: Jern. Ann.,
1939, **123**, 199~221
- 7) W. Geller: Archiv Eisenhuettenwesen, 1942
11, 479~90
- 8) S. Marshall & J. Chipman: Trans. Amer.
Soc. Metals, 1942, **30**, 695~746
- 9) E. T. Turkdogan et al: J. Iron Steel Inst.,
1955, **181**, 123~8
- 10) F. D. Richardson & W. E. Dennis: Trans.
Faraday Soc., 1953, **49**, 171~180
- 11) A. Rist & J. Chipman: Rev. de Metall.,
1956, **53**, 1~12
- 12) 的場・万谷: 学振 19 委 5436, April, 1959
- 13) J. Chipman & H. Manley: J. Iron Steel
Inst., 1955, **180**, 103
- 14) F. D. Richardson & W. E. Dennis: J. Iron
Steel Inst., 1953, **175**, 257~63
- 15) M. N. Dastur & N. A. Gokcen: Trans.
A.I.M.M.E., 1949, **185**, 665~7
- 16) D. B. Smith & J. Chipman: Trans. A.I.M.
M.E., 1952, **194**, 643~644
- 17) T. P. Floridis & J. Chipman: ScD. thesis
at MIT, 1957
Trans. A.I.M.E., 1958, **212**, 549~553
- 18) A. Rist & J. Chipman: (unpublished) 1955
MIT 実験ノート
- 19) C. Wagner: Thermodynamics of Alloys:
1952
- 20) J. Chipman: J. Iron Steel Inst. 1955, **180**,
97~107

ソ連鉄鋼雑誌スターリ誌英語版の刊行

ソ連語は、英独仏語ほどの親しみがないため、現在でも神秘化され、英米あたりでも苦手であるらしい。またソ連は歴史的に見て、科学上後進国であつたため、科学技術用ソ連語には外来語が多く、いわゆるソ連語学者でも、英独仏語の科学用語を知らぬと誤訳を起しやすい。したがつて、鉄鋼技術関係のソ連文献の翻訳はきわめて困難であつた。アメリカには Henry Brucher 氏というドイツ系の冶金学者がいて、主としてソ連語の冶金文献を英訳にして相当高値で配布している（わが国では、アグネ出版社がその代理店で、最近の『金属』誌上に毎号、この英語訳リストがついている）。

ソ連の鉄鋼誌スターリ (Stal') は第二次大戦前から発行されているが、殊に戦後はその国力増進、科学進歩に伴つて、ついに世界的権威の鉄鋼誌となるに至つた。英国鉄鋼協会や仏国鉄鋼情報局などでは、個々の論文を時々選らび自国語に訳している。日本でも「製鉄技術総覧別冊」の名で、スターリ誌の中から特定の一部記事のみが日本訳されて鉄鋼連盟の手で有償（毎月 200円）発行されている。しかし、これは、翻訳者が二、三の語学者のみに限られているから、必ずしも完全でない。また、選択記事も毎号四、五に限られているから、重要記事や難解記事が放置されることもある。この事情は英米でも同様であるらしく、このような鉄鋼読者の熱望に答える必要が起つた。

そこで、英国鉄鋼協会は英国政府の命を受けて、この英語全訳版を出すこととなり、日本鉄鋼協会宛に、日本国内での読者の獲得可能性を問合せて来た（1959-4-10 付書簡）。この Stal in English は 1959 年 1 月号以降刊行され、その 1 月号が 5 月中には出版されたはずである。年間 12 冊予約値段は、一般読者は郵税とも 20 ポンド 12 シリング、英国鉄鋼協会々員については 15 ポンド 12 シリングである。もし、日本でも入手し得るようになれば、鉄鋼読者にとって最大の喜びとなるであらう。